

○音読学習のねらい（表2）

文章理解の指導過程のなかに発音・

発声・言葉の意味理解・情感的表現の

3つの指導目標を段階的に位置づけた

ものを言う。それは、①「音声のねら

いとして、発音・発声・呼吸の練習、

声量調節であり、②「意味理解のねら

い」として、発音・発声・呼吸の練習、

要語句を把握させ、内容理解の指導の

なかで叙述に即した意味を把握させる

ことであり、③「情感表出のねらい」

として、場面、人物、主題を考えるな

かで、情景・心情をとらえ、「表現読

み」の記号をつけて音読を工夫させる

ことである。

○個人別診断票

一人一人の音読の能力を的確に評価

し、その問題点を診断するものである。

診断票の評価の観点は、先に示した

「音読学習のねらい」をさらに細分化

した下位目標から設定した。

○診断と治療

「個人別診断票」の診断による各児童のつまずきを克服する指導である。

その治療の型は、次の四つである。

・読みぐせをなおす治療

・はつきりと発音させる治療

・言葉の意味理解のための治療

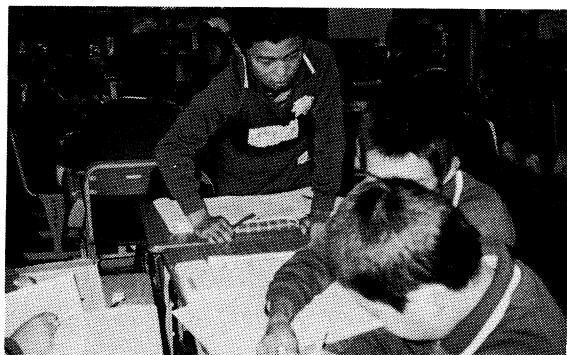
・情感表出のための治療

なお、治療は、基本的に各治療型の

目的に即した「治療型別テキスト」を使用する。

○聞き手に内容がよくわかる音読

心情・情景が聞き手によく伝わるよ



グループごとに熱心に学習する子どもたち（大石小）

うに、正しく明晰な発音で、しかも抑揚や強弱に注意して音読すること。

到達度評価は、到達目標を達成するのに必要な技能（下位目標）を評価の観点としたものである。

③児童の自己評価である「音読評価

カード」の作成

児童が自己評価を行うことによって、

目標の意識化と到達への意欲化につながると考えた。

「呼吸練習」、「発音・发声練習」を導入時に取り上げて指導を行なった。

○身体トレーニング

身体（特に口、あご付近）の緊張緩和

○呼吸練習

腹式呼吸の練習

○発音・发声練習

声帯の振動による音声を口、鼻咽頭、胸腔に共鳴させる練習

○読みぐせの練習

語彙の音読に関する指導事項、「聞き手にも内容がよく味わえるよう朗読すこと」（A領域のケ）を児童の目標

行動として書き表したものである。

○検証授業とその考察

（音読のねらいに基づく検証授業）

（ア）単元名「どろんこ祭り」

（イ）目標（省略）

（ウ）指導計画

○本時のねらい（省略）

（ア）本時の指導

（イ）（ウ）（エ）

○音読のねらい

（ア）発音・发声の取り上げ指導や、グループ内での輪番制による音読によつて

正しい発音・发声で音読ができるよう

にする。

○指導過程（表3）

（オ）実践とその考察

本時では、「音声のねらい」に基づく指導として、「身体トレーニング」、

この検証授業1の実践では、教師の発言・发声の指導や児童の相互学習の展開によつて、児童は一字一句正確に注意を払つて音読するようになつた。

この検証授業では、教師の発言・发声の指導や児童の相互学習の展開によつて、児童は一字一句正確に注意を払つて音読することができた。